第10回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者一覧表

＜農林水産大臣賞＞

◎ 大西　隆

〒501-0418　岐阜県本巣郡

◎ 沖永良部花き流通センター

〒891-9112　鹿児島県大島郡　（代表者　泉　貞吉）

＜農林水産省生産局長賞＞

◎ 林　康夫

〒378-0066　群馬県沼田市原町 88

◎ 農事組合法人　香花園

〒761-1501　香川県香川郡　（代表者　真鍋行雄）

◎ 有限会社　メルヘンローズ

〒879-4405　大分県玖珠郡玖珠　（代表者　小畑和敏）

◎ 玉城哲弘

〒901-0342　沖縄県糸満市真栄里 2009 番地

＜(財)日本花普及センター会長賞＞

◎ 谷藤幸子

〒028-3121　岩手県稗貫郡石鳥谷町戸塚 13-12-6

◎ 農事組合法人　白根フラワーコーポーラティブ

〒400-0226　山梨県中巨摩郡白根町有野 2022（代表者　保坂重雄）

◎ 伊奈義就

〒441-3502　愛知県渥美郡

◎ 宮脇　孝

〒775-0415　徳島県海部郡

◎ 藤本傳夫

〒761-4301　香川県小豆郡

◎ 中園英治

〒834-0014　福岡県八女市

◎ 江頭富春

〒854-1105　長崎県高来郡

◎ 富田良成

〒893-2502　鹿児島県肝属郡

農林水産大臣賞　受賞者

大西　隆・由美子御夫妻

出品財　経営（花き技術・経営）

大　西　　隆（ミニバラ）

岐阜県本巣郡糸貫町七五三　1065

岐阜県の鉢花生産は，昭和62年に全国初の広域鉢花専門農協「岐阜花き流通センター農協」を発足させ，全国への効率的販売網を確立し，現在は全国第3位の生産量を誇るまで大きく躍進してきている。

こうした専門農協の設置と生産拡大は，大西氏を始めとする時代を先取りし実践する経営感覚に優れた生産者の意欲的な取り組みによるものである。

岐阜県は，全国のポットローズ生産の80％以上を占め，ポットローズは県を代表する鉢花であり，大西氏はその第一人者である。

大西氏は，流通センターの設立以降，オランダ，デンマーク等花き先進国の情報収集と積極的な設備投資により生産拡大と低コスト化を進めると共に，消費者ニーズの多様化に対応した商品開発により，「バラ単品」生産ながら幅広い品種・商品群を誇り，消費者を飽きさせない商品開発手腕は特筆すべきものがある。

また，施肥・かん水労力軽減と製品の均一化を図るため，プールベンチシステムを積極的に導入している。この技術は，ヨーロッパでは広く普及しているものの，日本では高温多湿の夏期に問題となる病害虫の発生や溶液濃度等課題が多く技術が確立されていない。しかし，岐阜大学，県農業試験場，農業改良普及センター等とも緊密に連携し，科学的データの蓄積により先駆者として技術の確立に努めている。

労働環境についても，農業法人では整備の遅れている厚生年金，退職金制度，社会保険，失業保険等の社会保障制度を完備し，優秀な従業員の安定雇用に努めている。

こうした，着実な低コストに向けた設備投資，技術開発，魅力的な商品開発，人材確保の実践により，近年の低単価傾向の続く厳しい販売環境の中でも，規模の拡大によるスケールメリットを発揮することで，年々販売金額を伸ばし安定的な経営を実現し，日本一のバラ鉢花生産者の地位を確立している。

また，大西氏は，岐阜県花きのリーダーとして幅広く活躍している。

平成8年からは，岐阜花き流通センター農協の2代目組合長として，花き情報ネットワーク整備を進めるなど，県内生産者をまとめると共に，本年10月には，鉢物物流の諸問題解決と花き産地・業界の健全な発展を目指して発足した全国花き流通センター協議会の初代会長に就任している。

その人柄と経営の実績は高く評価され，全国各地からも講演の依頼を受けるなど全国的な花産業振興に精力的に活躍している。

大西氏夫人も，役員として経理部門を受け持ち，積極的に経営に携わっている。

特に，平成８年度に始まった岐阜県女性農業経営アドバイザーに認定されたほか，岐阜県農業会議常任会議委員，岐阜農林高校評議委員としての後継者育成や，特技の押し花を活かした身障者授産施設での押し花指導など，後継者育成，情操教育にも積極的に関わっている。

（推せん：花の国づくり岐阜県協議会）

テッポウユリ
の促成栽培

沖永良部花き流通センター
代表　泉　　貞　吉氏

出品財　経営（花き技術・経営）
沖永良部花き流通センター（スプレーギク，
テッポウユリ，ソリダゴ，グラジオラス等）
（代表者　泉　貞吉）
鹿児島県大島郡和泊町和泊 185-1

沖永良部島は，和泊町，知名町の２町からなり台風災害や消費地から遠隔地であること等さまざまなハンディがありながらも南西諸島の温暖な気候を活かした冬春期の生産性の高い品目を模索し，現在は，キクやユリ，ソリダゴ等の切り花類やテッポウユリの球根類の生産が盛んで，鹿児島の花き生産の約２割を占め，本県花きの主要産地である。

沖永良部花き流通センターの主な運営について述べると，次のとおりである。

① 話し合いに基づく運営

運営委員会及び品目毎の部会組織を構成し，運営についての協議や栽培技術研修会等を通じて生産者のための運営に努めている。

② 強固な生産流通体制の整備

平成２年に町や農協の支援のもと切り花の出荷施設を整備し，島内の切り花生産者の流通体制を支援するとともに，行政と連携しながら周年栽培体制の確立や高品質生産の推進等の生産面からの支援を行っている。

キク，ソリダゴ等の出荷量が増加する中，選花機や結束機等による労働力軽減を図るとともに，徹底した規格厳守を図る等，市場に信頼される産地づくりに努力している。

③ 行政と連携した環境に配慮した花き生産

行政と連携しながら環境に配慮した花き生産を目指し，農薬，化学肥料を削減した生産の推進を図っている。

④ 迅速な情報収集及び伝達

「農業情報センター」を設置し，全生産者への出荷状況や気象情報等を提供し生産者とのコミュニケーションづくりにも努めている。

以上のように，「沖永良部花き流通センター」は，これまで台風災害等のさまざまなハンディを乗り越え，県内外でもドップクラスの花き産地に成長してきた沖永良部島（和泊町，知名町）の花き生産に大いに貢献してきた。

また，花き産業の発展だけでなく，輸送物資の増大による港湾整備や他産地からの視察の増による観光の活性化等，地域経済の活性化にも大きく貢献している。

よって，この取り組みは，他産地の生産・流通体制づくりの模範となるものである。

（推せん：鹿児島花き振興会）

農林水産省生産局長賞　受賞者

出品財　経営（花き技術・経営）
林　康夫（施設花き：シクラメン，ジャスミン，
おきな草，クレマチス，キヤットテール）
（露地花き：ブラキカム，アッツザクラ，
その他）
群馬県沼田市

林氏は，シクラメンを中心とした鉢物栽培歴 30 年のベテランで県内の鉢物生産者のリーダー的存在である。

昭和 63 年には，群馬県鉢物研究会の会長として組織の強化や生産技術の向上に尽力した。国際的に対応するにはオリジナル品種の開発が重要になると考え，昭和 52 年からシクラメンの品種改良に取り組み，現在までに約 20 品種が育成され，県内外の生産者から高い評価を受けている。これらの品種は，平成５年ドイイツで開催された「ＩＧＡ93 国際園芸博覧会」に出品し，最高賞の金賞を受賞するなど，国際的にもその技術力が認められた。

農業者としては，利根沼田花き研究会長，沼田市農業青年会議所会長，群馬県農業経営士などの要職につき，花き以外の部門も含めて農業者の地位向上や後継者の育成に努めており，現在まで 10 名の研修生を受け入れ，地域の鉢物栽培者として送り出しているほか，中学校のＰＴＡ会長時代から花いっぱい運動の先導役として，生徒たちに花の種まきの実践や苗提供による花飾りを指導するなど地域にも貢献している。

（推せん：花トピアぐんま推進協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）
農事組合法人　香花園（カーネーション）
（代表者　真　鍋　行　雄）
香川県香川郡　　ｏ８

香花園は，農事組合法人として設立されて 25 年を数えているが，常に香川県のカーネーションを牽引してきた技術的にも経営的にも県を代表する生産団体である。

生産については，有機物の毎年投入による積極的な土づくりや蒸気土壌消毒の徹底など基本技術の励行により県内最高のレベルのカーネーションを生産している。また，苗部門と切り花

部門の生産の中で，種苗会社との最低出荷数量を絡めた委託契約を結び，経営の安定化をはかっている。

また，栽培面積が大きいため，無人防除機，点滴灌水・反射マルチ栽培及び選花機，結束機を積極的に導入し，省力化を図るとともに人件費低減対策にも前向きである。

さらに，国内外を問わず研修生の受け入れを行い，担い手の育成に積極的であり，平成 10 年には後継者１名が就農するなど確実に後継者が育っている。

（推せん：花の里かがわ推進委員会）

出品財　経営（花き技術・経営）

有限会社　メルヘンローズ（バラ）

（代表者　小　畑　和　敏）

大分県玖珠郡

(有)メルヘンローズは，「夢を語れる農業」をテーマとして平成７年４月に設立された。

現在，栽培面積 2.8ha で，構成員は社員７名，外部派遣社員等４名，パート社員 16 名とバラ栽培では県下最大の規模となっている。

また，社員の能力を活かした適材適所による配置と責任分担の明確化により強固な結束力を誇っている。

バラの輸入量が増加して価格が低迷しているなかで，カジュアルフラワーとしての可能性の地歩を固め，国際競争力に勝ち抜くため，ローリングベンチでの蜜植方式を導入することにより，坪当たり採花本数を高めるとともに，「カジュアルフラワーの量産」という新たな栽培方式を開発している。

この方式は，パート社員でも対応できるようなマニアル化に適していることから，県内の生産者にも低コスト生産技術として広く普及している。

また，コンピュータを利用した選花機の導入による品質管理や規格外品の商品化など様々な経営改善を進めるとともに，耐用年数を過ぎた廃ロックウールのリサイクルにも取り組むなど環境保全に配慮した栽培を行っており，県下のバラ栽培の技術，経営面でのよきリーダーとして大きな役割を果たしている。

（推せん：大分県花き消費拡大推進協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）

玉　城　哲　弘（小ギク）

沖縄県糸満市

玉城氏は，延べ面積で300aと大規模な経営面積を耕作しているが，植え替えにより作型を5段階に分けることで無理のない労働力配分，計画出荷を行っている。また，再電照技術によりボリューム感のある整った草姿に仕上げ，秀品率の向上を図っています。収穫作業を効率的に行うために畝ごとに一斉開花できるよう肥培管理を徹底し出荷日を調整している。収穫後は，ソルゴー，堆肥を投入するなどの土づくりを行い，連作障害の防止と土壌の保全を行っている。労働軽減については，平成6年に自動結束機を導入して，収穫作業後の出荷作業の効率化が図られており，また，環境保全についてフェロモントラップ，黄色の粘着テープ等使用するなど，極力農薬散布を減らしている。

同氏は，県内でも有数な小菊産地である糸満市において，売上実績を伸ばしながら地域の花き振興に大きな影響を与えている。また，糸満市農業青年会会長，花卉農協糸満支部支部長（平成10年度），現在は，花卉農協理事をくとめるなど同地域の農業発展に貢献しているほか，沖縄県花卉園芸農業協同組合が開催する年3回の生産者大会に参加し，市場情報や他産地の状況など情報交換に努め，地域における次代の花き栽培担い手の良き目標となっている。

以上のことから，玉城氏の花き栽培の取り組みは，地域に大きな影響を与えており，今後も花き生産者の発展に寄与するものと確信し，ここに推薦するものである。

（推せん：沖縄県花卉園芸協会，沖縄県花の国づくり協議会）

(財)日本花普及センター会長賞 受賞者

出品財　経営（花き技術・経営）
谷　藤　幸　子（りんどう，小ギク）
岩手県稗貫郡

谷藤氏は，昭和50年後半より転作品目について検討していたところ，先にりんどうを導入した農家から，りんどうが転換畑への作付けに適し，収益性も高く，転作品目として有望であることを聞いた。家族で導入について検討して結果，花き部門については本人が会社をやめ，責任を持って栽培管理することでりんどうの導入に合意し，昭和59年に5aの作付けから栽培を開始した。以来，販売実績などから経営品目としての有利性を認識し，毎年5a程度の増反を行った。

また，一方で，りんどうと同様に転換畑への作付けが可能で，高収益品目である小ギクに注目し，りんどうの補完品目として，昭和62年より5aの作付けから栽培を開始した。

以上の結果，花きが経営の中心となり，生産調整水田の有効活用と農業経営の安定化を図ることができた。

当地は，県内のりんどう産地のなかで降雪が比較的少なく，冬期間の温度条件からも半促成栽培（ハウス無加温栽培）に適している。そこで，積極的に半促成栽培を導入し，露地栽培よりも早い時期からの出荷により，有利販売と作業労力の分散を図っている。

また，桃花系品種で市場評価の高い「新踊り子」を早期に導入し，半促成栽培と露地栽培の取り組み合わせにより長期出荷を行い，高収益を上げている。

前述のように，半促成栽培を導入により労力分散を図っている。また，りんどう栽培において特に労力を要する出荷調整作業については，フラワーカッター・結束機・葉取機を導入して省力化をはかっている。さらに通路幅に合った切花運搬車を利用することで，以前の手運搬より効率的に，そして切花を傷めずに運搬することが可能となった。加えて，残さや堆肥の運搬にも活用し，作業効率が向上した。

また，同様に，作業労力を要する薬剤散布についても，リモコン式ホース巻き取り型防除機や常温煙霧機を導入して省力化を図っている。

農薬については，必要最小限の使用量とするため，ハウス内での煙霧機の使用，耕種的除機や適期散布を心がけている。また，りんどうの新植は必ず3年以上水田に戻した圃場に行い，薬剤による土壌消毒は実施しないように配慮している。小ギクは，マルチ栽培を行い，除草剤使用量の低減化を図っている。

（推せん：岩手県）

出品財　経営（花き技術・経営）
農事組合法人　白根フラワーコーポラティブ
（ニューギニアインパチエンス，シクラメン）
（代表者　保　坂　重　雄）
山梨県中巨摩郡

農事組合法人白根フラワーコーポラティブは，地域の中で分散して鉢花経営を行っていた白根町の若手生産者たちの中から，自分たちの技術向上・販売力の強化はもちろんのこと，遊休農地を活用し，新規就農者の育成を行うことで，地域農業の発展につながるような花の団地を作ろうとする考えが浮上してきた。そして，同じ場所で鉢花生産を行うだけでなく，技術や情報を共有し，お互いの能力や信頼関係も高めていける協業体制を設立していきたいとの考えに達し，その組織化について日々検討を重ねていった。

その結果，町，農協及び県の全面支援を受けながら，平成５年に「高品質生産流通合理化促進対策事業（国補事業）」を導入して，既存鉢花生産者４名と新規就農者１名が白根町で初めての生産法人となる農事組合法人白根フラワーコーポラティブ（ＳＦＣ）を設立し，共同経営を開始した。

白根フラワーコーポラティブは，個々の経営部門と同時に共同経営部門を確立し，情報や技術交換を行いながら，切磋琢磨している。その結果，高品質生産や経営の向上につながっている。

また，ロットの確保が可能となるため，信頼性や付加価値が高められ，相乗効果的に個々の農家経営も有利になっている。

さらに，年間を通して 20 名のパート雇用を行い，春はニューギニアインパチエンス，冬はシクラメンという作型で年間 18 万鉢を生産し，全国 35 市場に出荷し，地域への経済効果ももたらしている。

この集団は，法人組織でも，特異な性質をもっており，県内でも有数の組合法人であり，県の花き振興に多大な貢献をしているため，推進に値するものである。

（推せん：山梨県花の国づくり協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）

伊　奈　義　就（輪ギク，スプレーマム）

愛知県渥美郡

「農家に嫁には行かない」という娘の意見が，それまでキク専業農家として朝から晩まで忙しくそして真剣に働いてきた伊奈氏にとって，その経営姿勢を大きく転換する言葉となった。その後，「嫁が来る農業」「後継者が魅力を感じる農業」のためには，ゆとりある経営を確立することが必要と目標にかかげ，伊奈氏は低コスト・高品質生産にあわせ省力化・労働改善に積極的に取り組み，現在では家族経営で他と比べ40％の労働時間の短縮化に成功して週休制を確立し，年間売上げ3,600万円の地域で模範的なキク専業経営を実践するに至っている。

氏の特筆すべき花きの技術・経営の特徴は，生産出荷のあらゆる所で効率的で斬新な省力化技術と手法を先駆けて導入している点で，主な内容は以下のとおりである。

1　多収性品種と省力性品種の積極的な導入による省力化・低コスト化の実施があげられる。長年作りなれ信頼のある「秀芳の力」から多収性とはいえ未知の「精興の誠」への思い切った切り替えの決断と収量アップによるコストダウンを可能にしている。また，摘蕾・摘芽作業が30％省力できる「岩の扇」「雪国」を先駆けて技術研究し，導入している。これらは町全体に普及してきている。

2　出荷の形態を180度転換して，出荷箱に無結束でばら詰めした出荷を実践している。これは，出荷・調整作業を旧来に比べ40％と大幅に省力化できている。また併せて，ビニールひもを使用しないことと，切り花の長さを5cm短縮することによって消費地におけるゴミを出さないように努力がなされている。これらは，ＳＫＫマム部会の16戸で先駆けて実行して，市場や小売業者からは高い品質評価も受けている。

将来的には，通い箱を考えているようで，常に時代の先取りをする積極的な取り組み姿勢がみられる。

3　ソイルブロック苗利用の育苗・定植方法を採択して，課題である高温期での安定した生産を可能にし，かつ，施設の効率的利用による年3作生産体系を実践している。

4　高圧ナトリウムランプを利用して，冬季の寡日照期の品質の向上を実践している。この技術は，町の輪ギクやスプレーギク生産者に普及してきている。

5　区長の立場になったことから，町で初めて環境美化コンクールを企画して主催し，きれいな町づくりに地域住民とともに積極的に取り組んでいる。

以上のとおり，伊奈氏の技術・経営への取り組みは常に先駆的で省力的な内容であり，しかも若手経営者の育成と明るい地域社会づくりに貢献する活動は，他の模範となるものと判断し，推薦するものである。

（推せん：愛知県花き普及促進協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）

宮　脇　　孝（輪ギク）

徳島県海部郡

宮脇氏は，輪ギク専作農家として，育苗管理，定植作業に係る労働負担を軽減するため，全期間を通じていち早く直挿栽培や芽なしギクを導入するなど，積極的に省力化に取り組むとともに，電撃殺虫機，フエロモントラップ，粘着シートなどを利用し，環境にも配慮した防除を行うなど，県内でも最も先進的な技術導入を図っている。

経営面でも認定農業者（町の第１号）として，農業経営改善計画の目標を既に達成するなど，県内のキク専作経営のモデルとなっている。

また，ＪＡかいふ菊生産組合長として会員を率い，産地の発展にも尽力しており，平成 12 年度徳島県農林漁業優秀経営者選定事業において優秀賞を受賞するなど，本県を代表する花き優良経営者であると認められる。

（推せん：徳島県）

出品財　経営（花き技術・経営）

藤　本　傳　夫（輪ギク）

香川県小豆郡

藤本氏の経営の特徴としては，基本的には家族経営となるため「秀芳の力」等５品種と多様な栽培方法を組み合わせて，周年出荷を図り，労働力のバランスをとっていることとあわせて，摘蕾作業を省力化できる無側枝性ギク「岩の白扇」をいち早く取り入れたり，選花機・自動結束機の導入による出荷調整作業の完全機械化に取り組むなど省力化栽培に積極的に取り組んでいる。

また，所属のＪＡ香川県池田支部で取り組んでいる特別栽培キク「セレクト・マム」にはほとんどの生産物を出していることとあわせて，平成 11 年度は，香川県花き品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど技術力の高さは同支部最高レベルとなっている。

さらに，平成 10 年にはＪＡ香川県池田支部花卉部会長に就任し，また，香川県青年農業士，香川県農業士に認定されるなど地域はもとより県下全域において厚い人望がある。

以上のとおり，藤本氏の経営・技術は常に先駆的・合理的な内容であり，他の模範となるものと判断し，推薦するものである。

（推せん：花の里かがわ推進委員会）

出品財　経営（花き技術・経営）

中　園　英　治（輪ギク）

福岡県八女市

中園氏が，経営を引き継いだ頃の労働力は，妻と母が主要な家族労働で，労働力の多くは雇用に依存していたことから，年間を通して安定した雇用がしやすいよう，労働力分散による経営形態にすることが課題であった。

そのため，品種選定，新たな作型の導入及び施設や機械の計画的な導入により，周年栽培技術を確立し，年間を通して雇用しやすい条件を整えたことにより，現在は施設面積が就農時の約2倍の11,068㎡に拡大している。また，働きやすい環境整備にも積極的に取り組み，作業効率の向上が図られている。

家族の労働に対しては，早くから月給制や週休制を導入しており，平成10年には家族経営協定を結び，合理的で安定した経営を行っている。これにより，組合の役員になった平成7年以降は，私が年間80～100日間組合の運営に携わることになっても，雇用を大幅に増加させることもなく，ゆとりある経営を行っている。

市場から電照ギクの主力品種である「秀芳の力」の長期安定出荷の要望に対し，組合の中で栽培技術推進委員として技術開発を行い，出荷量の少なかった9月から10月の出荷量を増やし，長期出荷を可能とした。こうしたニーズに的確に答えるとともに，市場や大口顧客と検討を重ねながら，産地の生産改善目標を明らかにし，実需者と密接な連携のもとその実現に向け積極的に取り組んでいる。

また，県試験場等の協力を得て，新たに技術開発された穂・苗冷蔵技術を積極的に導入し，12月～3月出荷型を確立した。このように，他産地に先駆けて「秀芳の力」を共選販売の主力品種として出荷するなど，新品種や新技術の導入を積極的に行い改善を図るなど意欲旺盛である。

さらには，養液土耕栽培をいち早く導入したことにより，従来の施肥に比べて窒素成分で半分程度に削減し，環境にやさしい，農業を実践している。

福岡県のキクの生産額は全国3位で，県の重点品目に位置づけられていますが，その原動力になっているのが八女市のキク産地である。

氏は，この大産地の中で，新品種及び新技術の導入をとおして周年栽培技術を確立し，地域全体の農業経営に大きな役割を果たすなど，産地の牽引役の中心人物の一人として大きく貢献している。また，産地全体の利益向上，底辺の底上げによる全体のレベルの向上を組織的に行う「花卉園芸組合」の一員として組織に育成されながら，今日では組織のリーダーとして，また，当地区でもトップレベルの個別経営に発展させてきた経営実績は，産地二百数十名の目標とする姿としてふさわしく，今回推薦するものである。

（推せん：福岡県花の国づくり協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）

江　頭　富　春

（施設花き：カーネーション，チューリップ，ユリ）

（露地花き：ヒマワリ，ケイトウ）

長崎県北高来郡

江頭氏は，昭和56年に県立諫早農業高校を卒業し，昭和60年，22歳の時に，就農の決意を固め，当時勤めていた会社を退職して，カーネーション栽培を開始した。その頃飯盛町では，すでにカーネーション栽培が行われていたため，地元の若葉生産組合（現ＪＡ県央諫早地区カーネーション部会）に加入し，先輩部会員のハウスにまめに足を運び，栽培技術，品種，流通等カーネーションに関する幅広い知識，技術を習得するよう常に努力しながら，年々規模の拡大を図った。平成３年には，台風17，19号によりハウスが倒壊する大被害を受ける等，幾多の苦難に遭遇しながらもこれを乗り越えて現在の経営基盤を確立し，家族経営協定を締結した企業的な経営を実践している。

氏は，平成10年７月から平成12年７月までの２年間，ＪＡ県央諫早地区カーネーション部会の部会長を務め，任期中は，部会の強固な結束と，徹底した栽培技術の統一による高品質生産を推進し，大阪，広島の市場で常に高い評価を得てきた。また，地元業者と共同で点滴かん水装置を開発し，部会への導入を図り，定植法の改善に取り組む等，部会長としてのリーダーシップを発揮し，省力化・高品質化・増収を達成している。

氏は，県立農業大学校の農家留学研修の受け入れ等，農業後継者の育成にも積極的に取り組んでおり，農業後継者に農業の素晴らしさを身を持って示し，本県の農業振興に広く寄与している。

本県においては，平成10年度に，本県の花き生産者，関係機関・団体の相互協調及び全国組織との連携を図りながら，本県の花き振興に寄与することを目的に「長崎県花き振興協議会」が設立されたが，この専門部会である「カーネーション部会（部会員数44名）」において，氏は，平成11年２月より役員に就任し，部会長を支えながら，カーネーション新品種の展示圃設置や各種研修会の開催，海外産地への視察研修，全国大会への参加，消費拡大対策事業等を推進しており，本県のカーネーション生産者が一致団結し，お互いに研鑽しながら，本県カーネーション発展のため活発な活動を展開しているところであり，氏のような先導的経営者の役割が非常に大きく，本県農業の振興には極めて大きな存在である。

（推せん：長崎県花き振興協議会）

出品財　経営（花き技術・経営）

富　田　良　成（バラ）

鹿児島県肝属郡

富田氏は，昭和52年からバラ栽培に取り組み，先進産地の事例調査を行い県内でもいち早くロックウール栽培に取り組む等積極的な栽培を行い，平成10年度には認定農業者の認定を受ける等，本県花き生産者の中でも先進的な生産者である。

経営については，曾祖父の代から100年にわたって農業日誌をつけており，これまで蓄積されてきたデータをデータベース化することを検討する等祖先から受け継がれてきた農業経営を現在の経営管理に大いに役立てている。

また，関係機関と連携しながらパソコンによる簿記記帳にも積極的に取り組み，的確な経営分析を行っている。

経営面では，徹底した低コスト生産に向けて自作の安い資材利用する等の工夫しているほか，作業の省力化のためベンチの高さを調整する等の工夫も行っている。

また，長男が大学卒業後，経営に参画しており，長男はフラワーアレンジメントの資格も有しており，多種多様化する消費ニーズに対応できるよう消費者からの情報も適宜収集し，それを経営に反映している。

同氏は，肝属地区花き振興会副会長や根占町花き振興会副会長，なんぐう地区農業経営者クラブ副会長を努め等，地域の花き振興にも大いに貢献するとともに，地域の農業祭へも積極的に参加する等地域の活性化にも大いに貢献している。

（推せん：鹿児島県花き振興会）